

# 平成31年度事業報告書

神戸市立湊学童保育コーナー

## 1. 《基本方針》

- ① 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ② 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③ 親館との連携を密に図る。

## 2. 《平成31年度目標》

- ① 小学校との連携を密に図る。  
→学期毎に情報交換会をする。また必要な時はその都度情報交換会を実施する。
- ② 児童一人一人を把握する。  
→信頼関係が築けるよう、たくさん関わり、楽しいことを共感した。
- ③ 保護者との連携を図る。  
→ノートや手紙で情報を発信し、送迎時に話をしてコミュニケーションをとった。
- ④ 組織の構築を図る。  
→職員会議やミーティングで話し合う等しながら、組織として機能するようにした。
- ⑤ リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。  
→コーナーやこども園でのことを参考にしながら安全確保に努めた。
- ⑥ 児童、職員の交流を深め、児童館と一体的に保育を行う。  
→児童館の行事にコーナーの児童が参加をした。職員が入れ替わって保育をする機会も設けた。  
法人内こども園へも夏休み期間中などを利用して交流することが出来た。
- ⑦ ICTを導入し、出欠の確認等の業務の効率化を図る。  
→サクラシステムを導入し、出欠確認や報告書作成等の業務を効率的にこなせるようにした。

## 3. 《指導内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。  
・学習支援 ・おはなし会 ・けん玉遊びの推奨 ・おりがみ教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

## 4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり参加
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り みなとカフェ サマープログラム（工作・ゲーム）
8月	サマープログラム（工作、ゲーム）ビデオシアター

	地域こども神輿参加 カプラワークショップ
9月	運動遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	クリスマス飾り作り
12月	お楽しみ会 みなとカフェ 児童館年末お楽しみ会参加 (ダンスチーム)
1月	お正月遊び 個人懇談
2月	豆まき 新1年生資料配布
3月	お別れ会 入会説明会 みなとカフェ

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・おはなし会・みんなであそぼう

6. 《初日在籍数》

	1年生 (人)	2年生 (人)	3年生 (人)	4年生 (人)	5年生 (人)	6年生 (人)	合計
4月	34	20	22	9	1	0	86
5月	35	20	22	9	1	0	87
6月	35	20	22	9	1	0	87
7月	35	20	22	9	2	0	88
8月	37	20	22	9	2	0	90
9月	38	20	22	9	2	0	91
10月	37	20	22	9	2	0	90
11月	37	20	22	8	2	0	89
12月	36	20	20	8	2	0	86
1月	35	21	19	8	2	0	85
2月	35	20	19	8	3	0	87
3月	35	19	19	8	3	0	86
合計	684	240	253	253	23	0	1052

7. 《防災・防犯訓練》

火災・地震・防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。

月日	訓練の種類	参加人数
4月26日	火災訓練	68
5月21日	火災訓練	59
6月17日	防犯訓練	43
7月16日	地震訓練	62
8月20日	火災訓練	50
9月24日	防犯訓練	61

10月15日	火災訓練	64
11月26日	地震訓練	58
12月3日	防犯訓練	68
12月19日	火災訓練	57
1月7日	防犯訓練	46
1月15日	地震訓練	56
2月7日	防犯訓練	65
2月17日	火災訓練	57

8. 《会議》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。

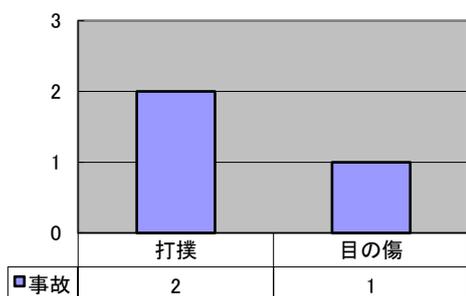
毎月リーダー会議を行い、児童館と情報交換や約束事の統一、問題点について話し合った

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

平成31年度 事故 3件

① 事故発生内容



② まとめ

遊んでいる中で起こったことなので、人との距離感や周りの環境も意識するように指導していく。

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・ 4件

平成31年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	4件	0件	4件

## ○まとめ

子ども同士のトラブルからの相談、保護者への連絡や対応についての相談があった。子ども同士のトラブルについては職員の目が行き届いていなかった部分があるので、変わった様子がないか見落とさないように職員に指導していく。

保護者への連絡や、挨拶は徹底して行うように職員に指導し、コミュニケーションをとることの大切さも伝えていく。

## 1 1. 《総括》

開設1年目で児童、職員ともに不慣れなことや課題が多かったが、職員同士で話し合ったり、子どもを交えてルールを決めたりしながら少しずつ形が出来ていった。今後も、必要に応じて子どもたちと一緒にルール作りをしていながら「湊学童保育コーナー」の形を作り上げていきたい。

子どもたちが自主的に活動ができるように、必要な物を用意するなどした。そうしている内に、ダンスチームができ、お楽しみ会などで発表をした。4年生が中心となって低学年を引っ張っていき、活動を継続して行っていた。このような活動が活発になるように、子どもたちの様子をよく見て、気付いていける職員の目を養いたい。

サクラシステムを導入し、出欠確認が効率的になっているが、職員が扱いきれていない機能も多いので次年度の児童数増加に向けて、より効率的に作業ができるように職員に操作方法を伝えていく。

小学校との連携は、気になる児童について随時情報交換をしたり、学期毎に情報交換会を行うなど良好な関係を築けている。今後も密に連絡を取れる関係性を継続して構築していく。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休校期間中は、マスク着用がなかなか徹底できず、家庭にあるが持参しない子どもや、意図的に外してしまう子どもが多かった。なぜ必要なかを子どもたちにしっかりと伝えることが出来ていなかったことも原因にあると思われるので、必要なことは徹底させ、危機管理をしっかりと行えるように職員の意識を変えていく。